

1 . 「平成 2 3 年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策に係る実施状況報告書 ( 大飯発電所 )」( H23.4.14 提出、H23.4.27 改訂版提出 ) におけるデータ誤りの詳細について

( 1 ) データ誤り箇所

以下の 3 箇所において、データ誤りがあったが、いずれも評価における計算では、正しい数値を用いており、評価結果は変わらない。

なお、データ誤りがあった箇所は外部に委託することなく、当社社内で作成していたものである。

補助ボイラ燃料タンク定格容量および油量 ( 下線部の 2 箇所 )

・記載箇所：改訂版 添付資料 - 6 電源容量の評価及び妥当性 ( 3 / 8 )

誤	正
・タンク容量： <u>2 0 0</u> m <sup>3</sup> ( 1 ~ 4 号機共用 ) ・油量 ( タンク容量の 4 0 % )： <u>8 0</u> m <sup>3</sup> ( 1 ~ 4 号機共用 ) ・給油可能連続日数：3 1 日	・タンク容量： <u>5 0 0</u> m <sup>3</sup> ( 1 ~ 4 号機共用 ) ・油量 ( タンク容量の 4 0 % )： <u>2 0 0</u> m <sup>3</sup> ( 1 ~ 4 号機共用 ) ・給油可能連続日数：3 1 日

データ誤りは、タンク定格容量および油量の誤記であり、電源車への給油可能連続日数については、当初から正しい値である 2 0 0 m<sup>3</sup> で計算しており、評価結果は変わらない。

1 次系純水タンク定格容量 ( 下線部の 1 箇所 )

・記載箇所：

改訂版 添付資料 - 5 使用済燃料ピットへの水補給方法 ( 2 / 3 ) ( 3 / 3 )

改訂版 添付資料 - 8 使用済燃料ピットへの給水評価 ( 3 / 7 )

誤	正
・ 1 次系純水タンク容量 <u>4 2 0</u> m <sup>3</sup> × 2 ( 3、4 号機共用 ) ( 想定水量：2 5 2 m <sup>3</sup> )	・ 1 次系純水タンク容量 <u>4 0 0</u> m <sup>3</sup> × 2 ( 3、4 号機共用 ) ( 想定水量：2 5 2 m <sup>3</sup> )

データ誤りは、タンク定格容量の誤記であり、使用済燃料ピットへの給水評価における想定水量 2 5 2 m<sup>3</sup> に誤りはなく、評価結果は変わらない。

## (2) 報告書の他のデータの確認

「平成23年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策に係る実施状況報告書(美浜発電所、高浜発電所、大飯発電所)(改訂版)」について、同様のデータ誤りがないか、下記の要領で再確認を実施し、他にデータ誤りがないことを確認した。

### 確認対象

緊急安全対策報告書に記載されている以下の評価に係る数値。

- ・電源容量の評価 (各機器の電源容量、タンク容量、油量、等)
- ・蒸気発生器への給水評価 (タンク容量、水量、等)
- ・使用済燃料ピットへの給水評価 (タンク容量、水量、等)

### 確認方法

作成担当グループとそれ以外のグループによるダブルチェックの体制で、工事計画書記載値等との比較や評価結果の再計算等により確認。

## (3) 原因

### 補助ボイラ燃料タンク定格容量および油量

当社担当者が資料を作成する際、「タンクの定格容量を500m<sup>3</sup>、タンク定格容量の40%相当量である油量を200m<sup>3</sup>」と記載すべきところ、「タンクの定格容量は200m<sup>3</sup>」と勘違いしたため、「タンクの定格容量を200m<sup>3</sup>、40%相当量である油量を80m<sup>3</sup>」と誤って記載した。記載内容については、担当者と担当者以外でチェックを実施していたが、評価結果である「給油可能連続日数：31日」を重点的に確認していたため、誤りに気付かなかった。

### 1次系純水タンク定格容量

当社担当者が資料を作成する際、元データを十分確認せず、「420m<sup>3</sup>」と誤って記載した。記載内容については、担当者と担当者以外でチェックを実施していたが、評価における数値である「想定水量：252m<sup>3</sup>」を重点的に確認していたため、誤りに気付かなかった。

## (4) 再発防止対策

評価に係る数値のチェックにあたっては、作成担当者が行い、作成担当者以外は、評価に直接関連する数値についてのみ重点的にチェックを行っており、ダブルチェックの機能を十分に果たせていなかったことが原因であり、今後は、関連する数値も含めて全ての数値について確認し、作成担当者と作成担当者以外によるダブルチェックを徹底することとする。